

Wiki の普及と個性化の保持

(ポジションペーパー)

陳 健¹ 金 群²

¹株式会社セネット ²早稲田大学人間科学学術院

概要 : 生まれてからわずか10年間、多くの Wiki クローンが作成され、様々なプラットフォームに移植され、活用されている。一方、多様性をもつ Wiki は、異なるクローンを超えた情報共有に不便を与えている。また、Wiki の標準化をしようとする動きが活発になっている。本稿では、Wiki の普及と個性化・多様性の保持について論じる。

1. Wiki の誕生とその特徴

1995年、Ward Cunningham氏が自分のサイトに「WikiWikiWeb」を名付けた[1]。そのサイトで使っていたプログラムが Wiki の原型である。同氏がこれを公開したことから、Perl、PHP、Ruby、JavaScript など8種以上の言語を利用して、多くの Wiki クローン・プログラムが作成され、様々な環境に移植された。

それからわずか10年間、Wiki は急速に Web サイトに普及した。現在、Wiki を利用するサイトは、公開されたサイトだけではなく、組織内部の情報管理・共有のツールとしても、数多く利用されている。更に、個人によっても、日記などの領域に、Wiki は活用されている。

では、Wiki は Web サイトの世界に何を与えたか？まともしてみると、Wiki には5つの特徴ある[2][3]。

- ネットワーク上のどこからでも、いつでも、誰でも、文書を書き換えて保存ことができる。
- 文書を書き換えには Web ブラウザのみを必要とする。
- Wiki 特有の文書マークアップは HTML などと比べて簡単なので覚えやすい。
- 同 Wiki 内の文書間にリンクを作ることが容易で、高度に関連しあった文書群を作成しやすい。
- Wiki 自身が自分のサイト検索機能を持っているので、サイト検索がしやすい。

Wiki は使いやすくて、管理しやすいので、ますます進化しつつ、普及している。

2. Wiki の歴史と個性化

Wiki の利便性によって、1995年以後、新しい Wiki が次々に生まれた。ある Wiki サイトが WikiWikiWeb の一部を継承し、その一部を変化させて、新しい Wiki を生んだのである。ある Wiki サイトは、WikiWikiWeb を参照し、別のルールに基づいて開発され、また別のサイトから自然に生まれ、別個のものとなった。

この約10年間に進化を続け、それぞれの着目を持って Wiki の家族が次第に増えて、数10種のクローンに進化したのである[2]。それで、いろいろな着目をもって開発された Wiki、多様な個性をもっているのである(表1を参照)。

表1. 代表的な Wiki クローンのポジション[4]

着眼点	代表的な Wiki
コミュニティによる文書作成	CvWiki, AtisWiki, UseModWiki, MeatballWiki
ローカリゼーション	YukiWiki, WalWiki, PukiWiki, Hiki
サイト構築の利用	UesModWiki, MediaWiki
共同作業ツール	QwikWeb, Trac
企業向けの利用	Kwiki, Confluence, JotSpot
個人向けの利用	Wema, TiddlyWiki

3. Wiki の実態とその標準化

Wiki の進化とともに、利用者も自分に使いやすい Wiki を選択できるようになった。すなわち、自分にとって使いにくい Wiki を捨てて、使いやすい Wiki を選ぶようになったのである。自然界と同様に、Wiki も選択され淘汰されたのである。

表2は日本国内にある Wiki 開発サイトのスポット・チェックの結果である。この結果によれば、現在広く利用されている Wiki は、FreeStyleWiki や PukiWiki や Hiki などの2、3種の Wiki に限られている。また、vikky という Wiki は、「公開を休止」の宣言を出している [5]。

表2. 日本国内における Wiki の利用状況調査
(2006年9月27日現在)

Wiki 名	利用サイト数	備考
FreeStyleWiki	141	
PukiWiki	数百個	
YukiWiki	不明	
WalWiki	7	
Tiki	不明	
Hiki	590	有償サービス
BitChannel	不明	
“変なもの”Wema	不明	
PassWiki	48	
Wifky	33	
KinoWiki	不明	
KamiWiki	不明	
Pwyky	不明	
TiddlyWiki	不明	
Structure Wiki	不明	

注：「不明」が利用状況を明示的載せていないもの。

Wiki の利用が集中するとともに、元々利用されていた Wiki のコンテンツを別種の Wiki に移行する作業が必要になった。しかし、自然に生まれた Wiki がそれぞれのルールに基づいて開発された。また、利用環境がそれぞれ異なり、データの持ち方もばらばらになっている。文書の書式の定義も統一されていない。データを移行したならば、異種の Wiki には、問題が発生するかもしれない。

以上に述べた問題があるために、Wiki を標準化しようとする議論が盛り上がり、動きが非常に活発化になっている[6]。MeatballWiki は Wiki のマークアップを標準化することを提案した[7]。日本では 2004 年、ロリポップのサイトで「Wiki の文法の標準化に関する Wiki」のページが設置された[8]。

4. 進化論と一元化

Wiki を標準化する議論と逆に、標準化したら、Wiki の個性化がなくなる恐れも出ている。簡単に言うと、文書の書式は言語が異なるのはもちろん、使用習慣や表現方法でも全く同じのものはほとんどない。書式を標準化しても、個性化の書式がどうなるかは明らかではない。全ての言語の書式に対応しなければならないとすると、覚える必要な書式記号が増えて、Wiki の便利さがなくなるかもしれない。

進化論に即して自然界をみると、有利な形質を持ったものがより多くの子を残すという自然選択の規則がある[9]。また、生物種の多様性と変異との関係をみると、生物の種が多ければ、変異の確率は高まる。

この自然界の規則は、Wiki の世界にも適用できるであろう。つまり、使いにくい Wiki は捨てられて、使いやすい Wiki が残されるのである。もし標準化するならば、Wiki を開発する組織の財力や技術力が強ければ、その組織が開発した Wiki が残るはずである。そうすると、Wiki の個性化は次第に減り、多様性もなくなるはずである。多様性がなくなると、Wiki の変異の確率も低くなり、進化の可能性が低くなるであろう。そうして一元化になるかもしれない。

オペレーティング・システム（以下では OS と呼ぶ）の歴史からも自然選択の跡がみられる。フリー百科事典「Wikipedia」の日本語サイトによると、今までに生み出された OS は 5 世代、約 45 種である[10]。それらのうち、現在 Mach4 プロジェクトは停止している。NEC が開発した ACOS シリーズは販売が終了した。2001 年、BeOS の歴史は終わりを告げた。Domain/OS は、途中で開発が断念された。Human68k は、2000 年に無償公開された後、Ver3.02 版で終了した。

OS の進化とともに、数多くの OS が消えていった。今現在、残っているのは、Unix/Linux、MS-Windows、Mac OS と他の少数の商用 OS である。OS 市場はほとんど MS-Windows の天下にな

っている。それらのうち、使いやすい Windows Server は、更にサーバー領域に進入し、Unix の伝統領域を攻めている。攻められた Sun Microsystems 社は、Solaris をオープンソース化、無料化せざるを得なくなった。

MS-Windows が事実上 OS 市場の大半を独占している。それとともに、Windows に対するウイルスやサバパイアタックなどの行為が増えており、数多くの損害事件が起こっている。日経 BP の記事によれば、2001 年 2 月に起こった Web サーバーへの大規模アタックでは、Windows NT/2000 が稼動するサーバーが狙われ、実際に改ざんなどの被害が多数発生している[11]。

その一方、競争相手が相対的に弱くなってきた MS-Windows の進化も鈍くなりつつある。Microsoft 社はこれまで大体 2、3 年の間隔で、新しいバージョンを発表していたが、次の Windows Vista は 2007 年 1 月にリリース予定であり、間隔は 4 年間に延びた。

5. Wiki 個性化の保持

OS の歴史に照らして Wiki の将来を考えてみよう。一元化が進行すると、MS-Windows のようにアタックを受けやすくなる恐れがでてくる。進化が遅くなる可能性も高まる。しかし、情報交換が頻繁になっている今の時代には、一元化は極めて有益である。

一元化には情報共有のメリットがある。しかし、デメリットも避けられない。デメリットを抑えるには、確かに多様性が必要である。多様性を維持するためには、様々な個性化の保持が必要である。しかし、それは情報の共有に影響を与える。

謝辞：本稿の作成に際し、大東文化大学の内田知行先生に、丁寧に日本語のチェックと添削を頂きました。ここにお礼を申し上げます。

参考文献

- [1] <http://e-words.jp/w/Wiki.html>
- [2] <http://ja.wikipedia.org/wiki/Wiki>
- [3] <http://en.wikipedia.org/wiki/Wiki>
- [4] 江藤、塚本、島田：“Wiki 概念の多様性”，Linux Conference 抄録集，第 4 巻（2006 年 6 月）。
<http://lc.linux.or.jp/paper/lc2006/CP-02.pdf>
- [5] <http://vivi.dyndns.org/vikky2/vikky.phtml>
- [6] <http://www.wikisym.org/pipermail/wiki-standards/>
- [7] <http://www.usemod.com/cgi-bin/mb.pl?WikiMarkupStandard>
- [8] <http://lab.lolipop.jp/fswiki/wiki.cgi/wikistandard>
- [9] <http://ja.wikipedia.org/wiki/>、「進化論」
- [10] 同上、「オペレーティングシステム」
- [11] IT Pro Security, 日経 BP,
http://itpro.nikkeibp.co.jp/members/ITPro/SEC_CHECK/20010213/1/